

## 特別対談

### 田舎で働きたい！

# 勝山の魅力って？

NGO法人が募集した「田舎で働き隊」事業で、冬の北谷町小原地区でのワークキャンプに県外から2名の若者が参加しています。  
勝山市内でも有数の豪雪地帯で彼らが見たもの、感じたものは？

市長 こんにちは、はじめまして。一同 こんにちは、よろしくお願います。

市長 プロフィールを見せてもらいましたが、皆さん出身はバラバラですね。勝山にはいつまで滞在する予定ですか。

横地 2か月の予定です。3月末まで滞在します。

市長 それは長いですね。

この時期の小原は、かなり雪がありますけれど、皆さんは雪の経験はありますか。また、このワークキャンプに参加しようと思ったきっかけについても教えてください。

横地 私は地域活性化について興味がありまして、今回小原地区で地域活性化に関連する募集があることを知って参加を決めました。

出身は仙台市なので、雪は降りますが、さすがに3メートル近い雪は初めてでびっくりしています。

吉岡 私は昨年20歳になりました、これまで社会にサポートしてもらった側になりましたので、これからはサポートする側になって、少しずつ自分のできることを探そうと思っています。ときにこの事業を見つけ、今回の参加を決めました。

私は岩手県出身ですし、けっこう雪が積もる地域なので雪には慣れているつもりでしたが、小原に来て雪の多さにびっくりしました。



左：横地鉄平さん（24）仙台出身 会社員  
右：吉岡朝子さん（20）岩手県出身 学生

山内 小原エコプロジェクトの山内です。二人のお世話をしています。私は、主人が勝山出身でして、平成18年豪雪の時に主人の父が雪下ろしで骨折したことをきっかけに、帰郷という形で一家全員で勝山に引っ越しました。

小原エコプロジェクトには昨年から参加しています。

市長 そういった方面にもともと興味があったのですか。

山内 私は、どちらかというと、子どもを自然の中で遊ばせたいという気持ちが強いので、そういった事業を今年はやりたいと思っています。自分の子どもも5歳と6歳で自由に自然の中で遊んでくれています。

市長 その年代から自然の中で遊ぶのはいいことですね。私も自分の子どもたちと山スキーで、北谷の谷峠から谷地区集落まで1時間くらいかけ

て降りてきましたよ。とても楽しかったです。

山内 おとなになったときに、ふっと思い出す風景を持つてもらいたいという思いがあります。

市長 勝山の人のDNAには、勝山の風景の美しさがきつと刷り込まれていると思います。子どもの時の心に、どれだけそれが残っているかで人生がずいぶん変わると思いますね。

今日はとても良い天気だから、外へ出れば良いシーンに巡り会えますよ。

### スキーをしないのもつたいない

市長 今日で勝山滞在は何日目くらいですか。

横地 ちょうど20日くらいですね。

山内 1月31日の大雪の日に、福井駅まで迎えに行きました。えち鉄は動いてなくて、車で2時間かかりました。

市長 それは荒っぽい歓迎になりましたね（笑）。



コーディネータ  
山内由季さん 三重県出身  
小原ECOプロジェクト所属

山内 実は、3月末にこの2人が小原で簡単な体験イベントをしようと企画しています。

市長 それはいいですね。

横地 先日行われた小原の豪雪体験に参加して感じたことですが、今回自分たちで企画するにあたり、まったく新しいことをする必要はないと思いました。それよりも、前からあるものに新しいものを足すといったほうがいいと思いました。

市長 なるほど、たしかにそうですね。

さて、今週末には左義長まつりというとても素晴らしい行事があります。ぜひ見に来てください。

吉岡 私たちも左義長ボランティアで参加します。

市長 そうですね。とてもいいことですね。

勝山で体験したことを、これから的人生にぜひ役立ててください。一同 ありがとうございます。

（対談日 2月22日）



市長 ところで、もうスキーはやりましたか？勝山に来たらスキーをやらないのもつたいない（笑）。

横地 かつやま恐竜の森のNPOOで、いろんな体験をさせていただいた時にクロスカントリイもやりました。アルペンは経験があるんですが、初めてだったので難しかったです。

吉岡 私もスキーの経験はありますが、クロスカントリイは初めてで難しかったです。でも、林の中を歩いていつもと違う景色が見られてとても新鮮でした。

市長 そうですね。スキージャムには行きましたか？

横地 2回行きました。コースが長くて楽しかったです。

市長 そうでしょう。私はスキーが大好きで、なんとか時間をやりくりしてスキージャムへ行っています。今年はずでに2回行ってますよ。一同 それはすごいです！



豆腐の手作り体験の様子  
（2月20日：小原地区）

その時に食べた保存食がとてもおいしかったですね。特に手作りの豆腐が忘れられないですよ。

山内 実は先日、小原の豪雪体験イベントの中で手作り豆腐を作ったんですが、本当においしかったです。

### スローフード・スローライフ

横地 市長はいつからスキーを始められたんですか。

市長 私は物心着いた頃からですね。父親に連れられて、よく山スキーに行きました。その時に今はない五所ヶ原の集落へ寄ったんですが、もう家全体が雪に埋まっているような状態で、雪のトンネルの中を入り口まで歩いていくんです。家の中は入ったすぐは暗くて、真ん中に大きな囲炉裏があって、それが明るく燃えていて、暖房でもあったわけですね。そこで沸いているお湯で調理をするんですよ。

その時に食べた保存食がとてもおいしかったですね。特に手作りの豆腐が忘れられないですよ。

山内 実は先日、小原の豪雪体験イベントの中で手作り豆腐を作ったんですが、本当においしかったです。

市長 そうでしょう。あの当時は、冬ごもりのために保存食を作り、野菜なども雪の中で保存したんですね。豪華ではないかもしれないけれども、決して貧しくはなかったんです。それが急激な現代文明の進展の中で、便利な暮らしを追い求めた結果、みんな住めなくなっていくんですね。

山内 いま小原地区は、これからどうやって存続していくか模索しているところです。人を呼び込むことで存続できる可能性があるのではないかと考えています。先日の豪雪体験でも村の人たちは、かんじき作りや豆腐作りの先生として、昔の冬の生活を教えてくれています。そういった形で存続も考えています。

市長 そうですね。いま日本全国で限界集落が増えています。ただ、そこに住んで欲しいと呼びかけても無理ですよ。でもそういう場所が好きだという人もいますし、季節の良いときだけなら住みたいという人もいます。そういった人たちの要望も叶えられるようにしておくと、また新しい形の交流ができるわけです。住んでいる人たちだけでなく、訪れてくれる人たちとの交流も含めた地域再生というものができるんじゃないかと考えています。過疎地再生の新しいカタチとして、これからも北谷の再生に力を入れていきますよ。



左義長ボランティアの様子